

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270100864
法人名	特定非営利活動法人 久米の家
事業所名	グループホーム 久米の家
所在地 (電話番号)	鳥根県松江市法吉町久米803番地2 (電 話) 0852-24-8439
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111
訪問調査日	平成21年9月28日

【情報提供票より】(21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 7 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	10 人
非常勤	1 人
常勤換算	10 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1000	円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須山医院 小松クリニック 紙谷歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれたのどかな環境の中で職員は基本理念である“一緒に・楽しく・ゆっくり・穏やかに”を大切にして毎日のケアに励んでおり、利用者のゆったりと穏やかな表情が印象的である。地域に根ざした事業所をめざして様々な取り組みが行われている。
この2年間職員に離職者はなく、よいチームワークが組まれており、施設内外の研修に積極的に参加してレベルアップに努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題について、理念に地域密着の意義を加えること、苦情相談窓口松江市役所の相談窓口を加えること、個人記録の管理など、取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で話し合い検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	併設の小規模多機能施設と合同で開催している。行政、地域包括、近隣の人、家族、利用者で構成され、会議は稼働状況、活動報告に対して参加者から意見がだされ討議が行われている。地域の道路の「溝蓋」の設置要求などについて地域の人と話し合いが行なわれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情は外部の苦情窓口を明示しており意見箱も置いている。家族の意見や不満は運営推進会議や、面会時に気軽に言ってもらえるように配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、日常的な近所づきあいを大切にしている。自治会並びにグループホームで行う催し物に利用者・住民が参加し、交流が行われている。地域の人から認知症の相談を受けるなど、安心して暮らせる地域作りに取り組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時から「一緒に・楽しく・ゆっくり・穏やかに」の理念に加えて、地域密着型サービスである事を意識する為に、前文に地域での位置づけを取りいれている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関と事務所に掲示して職員の意識づけを行ない、職員が理念を振り返ることが出来ている。また、新規採用職員の研修時などにも周知出来るように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、自治会並びにグループホームのそれぞれが行なう催し物に利用者・住民が相互参加して交流が行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で話し合い検討している。外部評価結果についても定例会で話しあい、改善に向け、計画的に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は併設の小規模多機能施設と合同で2月毎に開かれている。会では稼働状況、活動報告に対し、家族・行政・地域包括、地域住民などの参加者から活発な意見・要望がだされ、意見交換の場となっている。抽出された貴重な意見は職員に持ち帰り伝達・周知されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所でわからない事、判断に迷う事などを市の担当者に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を送付する際に、利用者の様子を書いて報告している。面会時には情報交換につとめ、急用の時は電話で報告している。毎年開催されている家族会でのビデオ上映も恒例となり、ホームでの日常生活がよく解り、喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満苦情は松江市国保連の苦情相談窓口を通したり、運営推進会議の場や、面会時の家族との意見交換で得ており、出された意見は定例会で話し合い、解決策を見出しホーム・法人運営に反映させる仕組みができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この2年間は職員の離職者はおらず、異動は併設の小規模多機能施設との間で最小限行われているが、日頃から施設間の交流があるので、利用者との馴染みの関係が作れている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護リーダー研修係が主となり新人研修、中堅研修などの個々の研修計画を作り、施設内外の研修に積極的に参加している。施設内研修では本年度は毎月“認知症の理解”をテーマに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会で同業者との交流を図り、意見交換をしている。又、他のグループホームの職員の研修を受けいれたり、依頼により認知症ケアの研修に講師として職員を他の施設に派遣している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者にホームで1日過してもらったり、催し物に参加してもらったり、職員が自宅に訪問したりして、馴染みの関係を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が経験されたことなどを日常会話の中で抽出し、得意分野で力を発揮して頂きながら、喜怒哀楽を共にして、支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、本人の思いや意向を聞きだし、定例会で情報交換して、職員全員で把握出来る様に心がけ利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の家族の思いや意見を聞き、心身の状態・有する能力等の現状の把握に努め定例会で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行なっているが、介護計画の見直しについては、期間の設定がはっきりしていないため、計画の展開が分かりにくい。状態変化が生じた時は必要な関係者と話し合い、現状に即した新規の計画を作成している。	○	計画の設定期間を決めて、見直しをされるのがよいでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型通所サービスを行っており、利用者とは和やかな交流がみられている。併設の小規模多機能施設と自由に交流できる支援も行われている。医療機関との連携・受診支援やホームの空床を利用した短期入所の提供、サービス開始前のご利用者様がアロマセラピー教室にご家族様と参加の支援をお行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は契約時本人家族と話し合って決めており、協力医に変更した場合は2週に1回の往診体制がとられている。入所前からのかかりつけ医の場合は家族の状況に応じ通院介助を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期についての希望、意向を家族と話しあい、医療情勢の問題などもあるが、かかりつけ医との連携うまく運び、全員で方針を確認しながら9月にホームでの“看取り”を行なった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけたり、プライドを損ねるような声かけや対応に気をつけている。職員は個人情報の大切さを理解し取り扱いに十分気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決めているが、利用者の希望、体調を大切に利用者のペースで支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は能力に応じて調理、盛り付け、配膳、後片づけに参加しており、職員も利用者と一緒にテーブルにつき、なごやかに食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によって、いつでも入浴できる支援を行っている。重度の介助が必要な利用者には2人介助、併設施設の機械浴を使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ること得意なことなどを把握して家事に参加できるように工夫し、支援している。アロマ教室、手芸、ギター演奏など楽しみの行事も多く、気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しや散歩は日常的に行われている。ホームの外に椅子を置き、天気の良い日は戸外で過ごす時間を多くとっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関やその他の鍵は施錠されていない。併設施設への渡り廊下も自由に入出りしており、職員はさりげなく見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人、消防署の協力を得て年数回避難訓練を行っている。通報システムは消防署、管理者の他に近隣住民にもつながるようになっていく。運営推進会議等で日頃から地域の人々の協力を得られるように働きかけている。		備蓄は水は行われているが、食料について検討された。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量の把握につとめ、摂取量の少ない場合は原因をさぐり対処している。献立は、管理栄養士に定期的に点検してもらい指導をうけている。多種類のドリンクが用意されており、好みに対応できる支援もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の食堂はこじんまりとして裏山や庭の緑が映え、季節の花なども飾られて温かい雰囲気につつまれ、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと箆笥は備えつけだが、入居者は写真、絵画、飾り物を持ち込み、それぞれが個性ある部屋になっている。個人の希望により、携帯電話の持ち込み・充電の支援も行われていた。		